

## 4. 情報収集・情報発信

### 4-1. ネットワークの構築

#### (1) 情報収集

##### ① 情報収集の方法

沖縄県内への外来種の侵入状況、ならびに県内における重点対策種・重点予防種・産業管理外来種の動向について、沖縄県外来種情報ネットワークの構成員候補となる専門家や地域で活動する団体、行政機関などに、対面やメール、あるいは遠隔会議システムを利用したヒアリングにより情報収集を行った。ヒアリングに協力していただいたのは、以下の専門家や行政機関、地域で活動するNPO団体などである。

##### ② 情報収集の結果

県内で今年度新たに侵入が確認された外来種は、沖縄島で発見された淡水生甲殻類の“シナヌマエビ”と昆虫類のクロスズメバチ属の一種であった(表4-1.1)。ただし後者については発見されたのは女王バチ1匹であり、定着はまだ定かではない。確認されたのは沖縄島のみである。

表 4-1.1 令和2年度に県内で新たに確認された外来種

No. 分類群	種名	対策外来種リストの カテゴリ	侵入地	原産地	想定される脅威	文献
1 甲殻類	“シナヌマエビ” <i>Neocardina</i> sp.	-	沖縄島南城市(垣花樋川)	韓国・中国	今後石垣島・西表島に侵入した場合、 在来の同属種と競合する	文献①
2 昆虫類	クロスズメバチ属の一種 <i>Vespula flaviceps</i>	-	沖縄島名護市(多野岳)	中国・東南アジア	在来生物の捕食・住民に対する刺傷	文献②

<文献>

- ① 永井大翔・今井秀行. 2021. 沖縄島から初記録された侵略的外来淡水エビのカワリヌマエビ類. 日本生物地理学会会報 76: 51-57.
- ② 名嘉猛留・山根正気. 2021. クロスズメバチ属の沖縄県からの初記録. Nature of Kagoshima 48: 95-98.

### ③ 重点対策種・重点予防種・産業管理外来種の情報

各地域へのヒアリングの結果、重点対策種 12 種の動向に関する情報を提供していただいた。その概要は表 4-1.2 に示す。

表 4-1.2 各地域より動向についての情報が得られた重点対策種

No.	種名	情報(島・市町村別)
1	ノネコ	(宮古島) 放し飼いや野良が多い
2	ノイヌ	(宮古島) 放し飼いや野良が多い
3	フィリマンゲース	(屋我地島) 最近確認され、在来爬虫類への影響が懸念される
4	ニホンイタチ	(阿嘉島) 目撃情報が増加し、ヘビ類が減少している
5	ニホンイノシシ (イノブタ含む)	(石垣島) 北部ではイノブタが捕獲されるイノシシの半分以上を占め、分布拡大のおそれがある (内離島・外離島) 令和2年度はイノブタ65頭を駆除
6	インドクジャク	(石垣島) 全域に生息し、両生・爬虫類やカンムリワシ等への影響が懸念される (小浜島) 今年度114羽を捕獲し、35卵を除去。推定生息数は277羽 (黒島) 今年度は33羽捕獲 (与那国島) 10羽未満が生息し、とくに増えてはいない
7	コウライキジ	(伊是名島) 年4~5回捕獲を実施 (恩納村) 生息は確認できていない (読谷村) 現在被害等は把握していない (石垣島) 全島に分布し、パイン・ピーナッツ等を食害
8	タイワンスジオ	(国頭村) 2021年3月に辺士名で1個体発見・駆除 (金武町) 今年度は全域で確認、昨年度は伊芸・屋嘉地区のみであった (うるま市) 昨年度40匹、今年度49匹を捕獲・回収
9	タイワンハブ	(金武町) 昨年度は0だったが、今年度は喜瀬武原地区で1死体を回収 (うるま市) 捕獲・死体回収0件 (読谷村) 毎月3~4匹捕獲。おもに長浜・座喜味・親志地区など
10	オオヒキガエル	(与那国島) 2021年6月に1匹捕獲、その後は発見無し
11	アメリカハマグルマ	(座間味島・阿嘉島) あちこちに広がっている (宮古島市) 防除未対策 (西表島) すでに蔓延しており、在来植生・景観への影響を懸念 (与那国島) 自衛隊の協力で大規模に駆除し、その後はあまり増えていない
12	ツルヒヨドリ	(名護市) 医師会病院周辺や源河などで増えている (恩納村) 数年前から村内で確認。調査は行っていない (与那国島) 自衛隊の協力で大規模に駆除し、その後はあまり増えていない

また、重点対策種 6 種、重点予防種 4 種、そして産業管理外来種 2 種について、専門家より県内における動向を含む情報や対策等へのコメントをいただいている。その概要は表 4-1.3 に示す。

なお、これらの情報については、検討会や作業部会等でも情報を共有していただく予定である。

表 4-1.3 専門家より情報やコメントのあった重点対策種・重点予防種・産業管理外来種の一覧

No.	種名・グループ名	カテゴリー	情報・コメント概要
1	ニホンイノシシ・イノブタ	重点対策種	世界自然遺産地域なので、内離島のイノブタを根絶させるべき 慶良間諸島のサワガニ類への影響が懸念される
2	インドクジャク	重点対策種	根絶を目指して集中投資や化学的防除も検討すべき
3	コウライキジ	重点対策種	やんばる地域に入ると生態系への影響が懸念される
4	サイカブト	重点対策種	大東諸島のピロウへの被害は、対策により以前よりは緩和されている
5	ハヤトゲフシアリ	重点対策種	対策は進んでいる
6	ツルヒヨドリ	重点対策種	手遅れにならないよう、全集中して取り組んでほしい 地元の人にこまめに駆除してもらえる体制を作るべき
7	カミツキガメ	重点予防種	本当に県内にいないのか、調査をしておく必要がある
8	アルゼンチンアリ	重点予防種	絶対に県内に入れさせてはならない
9	アカカミアリ	重点予防種	絶対に県内に入れさせてはならない
10	ヒアリ	重点予防種	本土経由での侵入に備えた体制が必要
11	セイヨウミツバチ	産業管理外来種	生態系への影響評価が必要
12	クロマルハナバチ	産業管理外来種	逸出状況の調査が必要

#### ④ その他の外来種

その他にも、県内各地において動向が懸念される既知の外来種 28 種（動物 13 種、植物 15 種）についての情報が得られている。分布が拡大しているなどおもな種についての概要は表 4-1.4 にまとめた。

なお、外来種リストにおける予防種・重点予防種が、新たに県内へ定着したという情報は無かった。

表 4-1.4 その他の外来種の分布拡大等の情報概要

No.	種名	情報
1	ノヤギ	国頭村辺戸（50頭以下）で確認され、奥と高江でも情報がある。西表島では古見岳周辺で多数確認され、確認範囲も広がっている
2	ヤエヤマセマルハコガメ	宮古島で広域に分布している
3	ナガエツルノゲイトウ	国頭村各地で確認される。石垣島では水田への侵入も起きている
4	ホテイアオイ	南大東島の朝日池で繁茂している
5	モミジバヒルガオ	やんばる地域のいたるところで増えている
6	ポタンウキクサ	北大東島で広がっている

## (2) 外来種リストの見直し

環境や生活・産業へ大きな影響がある種、あるいは侵入のリスクがある種のうち、外来種リストにおいて新規掲載やカテゴリ変更が必要なものについて、専門家に意見を求めた。その際には、(1) で得た重点対策種を含む外来種各種の侵入状況・動向についてのヒアリング結果も提供した。

### ① リスト見直しのためのヒアリング

リスト見直しのためのヒアリングについて、対象とした専門家は15名である。

### ② リストの見直し

専門家よりカテゴリ変更について提案があったのは、31の種ないしグループである(表 4-1.5)。結果は以下のように要約される。

- (1) 重点対策種への変更の提案があったのは10種
- (2) 重点予防種への変更の提案があったのは3種と2グループ
- (3) 対策種への変更の提案があったのは9つの種・グループ
- (4) 予防種への変更の提案があったのは7つの種・グループ

また、昨年度はカテゴリ変更の提案が保留となり、今年度さらに検討を行うとされたアメリカザリガニ(重点対策種へ推薦)とブラウンアノール(重点予防種へ推薦)については、両種ともあらためて支持が表明された。重点対策種への変更の提案があった種のうち、ノヤギとウシガエルについては、次年度から対策を開始する必要があるとの意見があった。

各種の提案理由を表 4-1.6~19 に示した。

表 4-1.5 沖縄県対策外来種リストの見直し対象種一覧

No.	分類群	種名	現行の カテゴリー	専門家が推薦した カテゴリー
1	哺乳類	ノヤギ	対策種	重点対策種
2	両生類	ウシガエル	対策種	重点対策種
3	魚類	ウォーキングキャットフィッシュ	対策種	重点対策種
4	甲殻類	アメリカザリガニ	対策種*	重点対策種
5	貝類	アフリカマイマイ	対策種	重点対策種
6	貝類	スクミリンゴガイ	対策種	重点対策種
7	貝類	ラブラタリンゴガイ	対策種	重点対策種
8	昆虫類	ヤエヤママドポタル	-	重点対策種
9	植物	ナガエツルノゲイトウ	対策種	重点対策種
10	植物	ブラクセリス・クレマチデア	-	重点対策種
11	爬虫類	ブラウンアノール	予防種**	重点予防種
12	爬虫類	タテスジマブヤ	予防種	重点予防種
13	爬虫類	スインホーキノボリトカゲ	予防種	重点予防種
14	昆虫類	島嶼外のカブトムシ類	予防種（一部）	重点予防種
15	昆虫類	島嶼外のクワガタムシ類	予防種（一部）	重点予防種
16	貝類	オオオカチョウジガイ	-	対策種
17	貝類	コハクガイ	-	対策種
18	貝類	チャコウラナメクジ	-	対策種
19	貝類	ミヤコマイマイ	-	対策種
20	貝類	アシヒダナメクジ科	-	対策種
21	昆虫類	ツヤオオズアリ	-	対策種
22	昆虫類	タイワンゴマダラカミキリ	-	対策種
23	その他の 節足動物	ミナミヤスデ	-	対策種
24	植物	ベニツツバナ	-	対策種
25	哺乳類	"ミニブタ"	-	予防種
26	両生類	アカハライモリ	-	予防種
27	両生類	アジアウキガエル属	-	予防種
28	貝類	在来種（オキナワウスカワマイマイ・タママイマイ）を除く ウスカワマイマイ属	-	予防種
29	貝類	日本本土のカワニナ類	-	予防種
30	貝類	ムラサキガイ	対策種	予防種
31	植物	ブリランタイシア属	-	予防種

\* : 前回の更新では重点対策種への変更を保留

\*\* : 前回の更新では重点予防種への変更を保留

(i) ノヤギ

西アジア原産で、家畜由来のものが各地で野生化している。植生を破壊するため生態系へのリスクが高く、放置は危険という指摘があった。本種を重点対策種とすることについては、今年度の哺乳類作業部会においても提案されている。今回、西表島のノヤギについては、早急に対処が必要との意見があった。

表 4-1.6 ノヤギのカテゴリー区分と提案理由

ノヤギ ( <i>Capra hircus</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 沖縄島と西表島の生物多様性保全上重要な地域において、分布拡大のおそれがある。</li><li>・ ギャップを広げていき、植生を破壊する。</li><li>・ 放置すると増えてしまうので、対策が必要。</li></ul>	

(ii) ウシガエル

アメリカ原産の大型のカエルで、県内では沖縄島中北部、久米島、伊平屋島、伊是名島等に生息する。希少種の多い大宜味村と久米島を優先的な駆除の対象地域とすべきという意見があった。また、大宜味村で今年度まで駆除実験を行い、主要な繁殖池のひとつで繁殖の阻止に成功しているため、元通りにしないためにも次年度より駆除を引き継いで欲しいという要望があった。その他にも、生態系への影響が明らかで、現実的な方法で駆除が可能であるという意見が挙げられた。

表 4-1.7 ウシガエルのカテゴリー区分と提案理由

ウシガエル ( <i>Rana catesbeiana</i> [ <i>Lithobates catesbeianus</i> ])		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 在来の陸生脊椎動物・水生昆虫類を捕食している。</li><li>・ 希少種の多く生息する大宜味村と久米島からの根絶を図る必要がある。</li><li>・ 分布拡大をしておらず、国内での根絶事例もあり、現実的な方法で対策がとれる。</li></ul>	

(iii) ウォーキングキャットフィッシュ

東南アジア原産のナマズの仲間、2004年に沖縄島での定着が確認された。雨天時には陸上を移動でき、塩分耐性があるため、汽水域でも生息できる。分布はまだ局地的なので対処が可能で、やんばる地域に入ると増えると、在来の水生生物の保全上懸念があるという指摘があった。

表 4-1.8 ウォーキングキャットフィッシュの 카테고리区分と提案理由

ウォーキングキャットフィッシュ ( <i>Clarias batrachus</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉食で大型となり、水生動物を捕食する。</li> <li>・水場から水場へ、陸地を通して分布を広げることができるため、沖縄島内において分布を拡大するおそれがある。</li> <li>・まだ分布は局所的なため、対策を講じる余地がある。</li> </ul>	

(iv) アメリカザリガニ

北米原産の淡水性甲殻類。昨年度、本種を重点対策種とすることについて提案があったが、保留となっていた。同様に、水生生物の生活の基盤である水生植物を壊滅させるなど、生態系への影響が大きいことが指摘され、またやんばる地域での分布拡大や、石垣島における侵入状況について懸念を示された。福地ダムではザリガニの侵入によってメダカやフナが減少した事例があり、対策をとれるようにすべきとの指摘があった。

表 4-1.9 アメリカザリガニの 카테고리区分と提案理由

アメリカザリガニ ( <i>Procambarus clarkii</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水生生物だけでなく、その多様性の基盤である水生植物にもインパクトを与える。</li> <li>・やんばる地域での分布拡大のおそれがあり、また石垣島に定着した場合、西表島などにも持ち込まれる可能性が高まる。</li> <li>・侵略性の高い種であることを示し、放流や教材としての利用がよくないという認識を社会に広める効果も見込める。</li> </ul>	

(v) アフリカマイマイ

アフリカ原産の大型になる陸生の巻貝で、沖縄には 1930 年代に移入された。近年増加傾向にあり、対策が必要という指摘があった。生態系への被害についての情報は無いとのことであった。

表 4-1.10 アフリカマイマイの 카테고리区分と提案理由

アフリカマイマイ ( <i>Achatina fulica</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年代以降、人家近くの環境で個体数が増える傾向にある。</li> <li>・広東住血線虫の宿主であり、家庭菜園の野菜等を通じて感染源となるおそれがある。</li> </ul>	

(vi・vii) スクミリンゴガイ・ラプラタリンゴガイ

南米原産の淡水性巻貝で、水田などに生息する。両種とも農業被害をもたらすおそれがあり、ひとたび増加すると個体数の抑制が難しく、早期に対策をとることで根絶が可能になるという指摘があった。また、両種とも生態系への被害に関する情報は無いということであった。

表 4-1.11 スクミリンゴガイの 카테고리区分と提案理由

スクミリンゴガイ ( <i>Pomacea canaliculata</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	・水田作物を食害する。とくに水稻栽培の多い八重山諸島で注意が必要。 ・ひとたび個体数が増加すると、抑制が難しい。	

表 4-1.12 ラプラタリンゴガイの 카테고리区分と提案理由

ラプラタリンゴガイ ( <i>Pomacea insularum</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	・水田作物を食害する。とくに水稻栽培の多い八重山諸島で注意が必要。 ・ひとたび個体数が増加すると、抑制が難しい。	

(viii) ヤエヤママドボタル

八重山諸島原産の大型のホタルで、沖縄島中南部で分布を広げている。捕食を通じて陸産貝類に影響を与えている可能性があり、分布拡大が続いた場合、やんばるの森へも侵入するおそれがあるという指摘があった。

表 4-1.13 ヤエヤママドボタルの 카테고리区分と提案理由

ヤエヤママドボタル ( <i>Pyrocoelia atripennis</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	・沖縄島で分布が拡大しており、やんばるにも侵入する可能性がある。 ・幼虫が陸産貝類を捕食することより、陸産貝類相に影響を与えている可能性がある。	

(ix) ナガエツルノゲイトウ

南米原産の抽水～湿性植物。石垣島では 2018 年の初確認以降、分布は広がっており、昨年には国頭村の各地でも確認されている。本種は栄養繁殖能力が高く、海外や本土での蔓延事例からみても、早期に対策を講じる必要があるという指摘があった。



表 4-1.14 ナガエツルノゲイトウの 카테고리区分と提案理由

ナガエツルノゲイトウ ( <i>Alternanthera philoxeroides</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養繁殖能力が高い。</li> <li>・海外や本土での事例より、蔓延しないうちに対策を講じる必要がある。</li> </ul>	

(x) プラクセリス・クレマチデア (和名は投稿中の論文で提案される予定)

南米原産のキク科の植物で、近年になって西表島と石垣島で発見された。海外では侵略的な種として知られていること、西表島で分布を広げており、他の島に広がらないよう対策が必要という指摘があった。

表 4-1.15 プラクセリス・クレマチデアの 카테고리区分と提案理由

プラクセリス・クレマチデア ( <i>Praxellis clematidea</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		防除対策外来種の「重点対策種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外では侵略的な種として知られる。</li> <li>・西表島で分布を拡大させており、他の島に広がる前に対策を講じる必要がある。</li> </ul>	

(xi) ブラウンアノール

東インド諸島原産のトカゲで、グアムや台湾などに移入されている。昨年度、本種を重点予防種へ変更することについて提案があったが、保留となっていた。台湾などの地域からの貨物について混入への監視を強める必要があるため、カテゴリー変更を支持するとの意見があった。

表 4-1.16 ブラウンアノールの 카테고리区分と提案理由

ブラウンアノール ( <i>Anolis sagrei</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		定着予防外来種の「重点予防種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的・気候的に近く、物資の往来も盛んな台湾において複数地点に定着している。</li> <li>・定着地域からの貨物等に対し、混入への監視を厳重にする必要がある。</li> </ul>	

(xii) タテスジマブヤ

東南アジア原産のトカゲで、台湾に侵入して分布拡大を続けている。台湾等からの物資にまぎれて侵入するリスクが高いこと、定着した場合は生態系への影響が大きく、防除が困難であるという指摘があり、重点予防種への変更の提案があった。

表 4-1.17 タテスジマブヤの 카테고리区分と提案理由

タテスジマブヤ ( <i>Eutropis multifasciata</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		定着予防外来種の「重点予防種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的・気候的に近く、物資の往来も盛んな台湾で定着し、分布が拡大している。</li> <li>・貪欲で他のトカゲまで食べるため、生態系へのインパクトが大きい。</li> <li>・生息・定着地域からの貨物等に対し、混入への監視を厳重にする必要がある。</li> </ul>	

(xiii) スインホーキノボリトカゲ

台湾原産のトカゲで、宮崎県日向市で移入集団が定着しているほか、静岡県磐田市や神奈川県厚木市でも発見されている。沖縄県でも定着する可能性があり、台湾からの貨物の監視強化が必要であること等の指摘があり、重点予防種への変更について提案があった。

表 4-1.18 スインホーキノボリトカゲの 카테고리区分と提案理由

スインホーキノボリトカゲ ( <i>Japalura swinhonis</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		定着予防外来種の「重点予防種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温への耐性が高く、沖縄県でも定着する可能性がある。</li> <li>・繁殖力が高く、また近縁種を含む在来種と競合するおそれがある。</li> <li>・生息地域からの貨物等に対し、混入への監視を厳重にする必要がある。</li> </ul>	

(xiv・xv) 島嶼外のカブトムシ類・島嶼外のクワガタムシ類

これら2群をそれぞれ重点予防種とすることについて提案があった。とくに販売実態の把握と、逃がしてはいけないことの普及啓発が必要であること、そして固有性・多様性の高い南西諸島のヒラタクワガタ種群などはとくに保全上の優先順位が高く、本土や島嶼外から近縁種が持ち込まれることには厳しい規制も必要という指摘があった。

表 4-1.19 島嶼外のカブトムシ・島嶼外のクワガタムシ類の 카테고리区分と提案理由

島嶼外のカブトムシ類 ( <i>Dynastinae spp.</i> )・島嶼外のクワガタムシ類 ( <i>Lucanidae spp.</i> )		
カテゴリー	リストの見直し後	現行
		定着予防外来種の「重点予防種」
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少なくない数が持ち込まれ、ホームセンター等で売られている。</li> <li>・定着や在来種との競合・交雑のリスクがあり、県内島嶼間の移動もその例外ではない。</li> </ul>	

### ③ その他の外来種および沖縄県の外来種対策についてのコメント

沖縄県の外来種対策に関するコメントについては概要のみを以下に示した。

- ・対策外来種リストは、現行のブラックリスト方式よりもホワイトリスト方式が望ましい
- ・小笠原諸島では、ホワイトリスト方式を採用したペット条例ができた
- ・外来種の基礎情報が不足しており、情報の蓄積や調査が必要
- ・在来生態系への影響を解明するため、長期的にインパクトがありそうな外来種と影響を受けそうな在来種をモニタリングしておくべき
- ・在来陸産貝類の域外保全の検討も必要
- ・慶良間諸島のサワガニ類の保全について
- ・生態系リスクのある在来種の持ち出し禁止も検討が必要

### (3) 今後の対応

今回の見直しにあたり、専門家からカテゴリー変更や新規掲載の推薦のあった種の取り扱いについては、検討委員会で十分な議論を行うことができず、委員からはさらなる情報収集が必要という指摘もあった。そのため、見直しの内容については事務局内での協議を行ったうえ、次年度の第1回検討委員会もしくは臨時の部会にて、さらに検討することとする。

## 4-2. 新規の外来種の侵入・拡散阻止のための情報収集システムの構築

新たな外来種の侵入と拡散を阻止するため、県内の外来種についての情報の収集・提供や注意喚起を行うための仕組みとして、沖縄県外来種ネットワークのホームページ案(以下、「外来種HP」とする)を検討中である。外来種HPは、最終的には「情報収集」、「教育普及・外来種対策の広報」、「沖縄県の外来種データベース」の3つの機能を有するものとする予定である。次年度に外来種HPを公開することを目指して準備を進めている。

### (1) 情報収集の内容

外来種HPでは、分布情報の収集の必要性が指摘されているグリーンアノール・タイワンスジオ・タイワンハブ・オオヒキガエルの4種について、県民から広く情報提供を募ることを予定している。ホームページ上でテキストや写真をアップロード可能な情報提供フォームに加え、表示される地図を操作することで、発見地点を通報できる仕組みを作成した(図4-2.1:①)。

【作成内容】：簡便な情報の収集機能

1. 外来種の確認位置をHPで収集できる機能
2. 写真の添付、確認位置をHP上の地図上に落とせる機能

### (2) 外来種についての教育普及および県が行う外来種対策の広報の内容

外来種についての教育普及や広報としての機能を果たすため、外来種の基本的情報(各種の基本情報、対策理由、最新の分布情報など)の紹介や、県の取り組み(沖縄県外来種対策指針・行動計画・対策外来種リスト、および対策の現状)の状況の紹介ページを作成した(図4-2.1:②、③、④)。次年度以降は、ボランティアによる取組を促進するための情報(防除法を映像で配信など)、外来種防除のイベントの紹介等を提供するページを作成する。

【作成内容】

○各種の基本情報・生態系への脅威などを紹介

1. 分類・和名・学名・英名・原産地・指定項目(特定外来生物等)
2. 形態・生態の情報・見分け方など
3. 沖縄への侵入経路と分布の現状
4. 生態系等への脅威
5. 沖縄県の対策(概要)

○重点対策種等の対策状況

1. 沖縄県の取り組み(外来種リストや行動計画などの説明)
2. 具体的な取り組み(捕獲・モニタリング法・防除結果・防除効果など)
3. 他地域での取り組みの紹介(国内外での事例紹介)

【次年度作成予定内容】

○ボランティアや外来種防除イベントの広報

1. 環境フェアやボランティアによる外来種対策イベント等の周知
2. 参加申し込みなども含め対応できる機能の付加
3. 一般市民への外来種駆除ボランティアの募集の周知
4. 防除の方法などをYouTubeで説明（ボランティア団体・教育向け）

### (3) 沖縄県の外来種データベース

平成30年度の委員会において指摘のあったデータベースとしての機能の付与については、専門家による監修あるいは執筆協力の仕組みのありかたを含めて次年度に具体的な作成内容を検討する。

<p>① 外来種の情報収集機能</p>	<p>② 沖縄県の取り組み紹介</p>
<p>③ グリーンアノールの情報</p>	<p>④ 普及啓発ダウンロード機能</p>

図 4-2.1 作成済みの HP の内容